

第 3 次長久手市子ども読書活動推進計画策定のためのワークショップ報告書

1 日時

- (1) 6月26日(日) 午前10時から正午まで
- (2) 7月17日(日) 午前10時から正午まで

2 参加者

- (1) 12名(欠席 4名) 2グループ
- (2) 15名(欠席 4名) 3グループ

3 内容

- (1) 図書館の概要について説明後、2グループに分かれて各テーマについて意見を出し合い、発表しました。

第1回目テーマ：「子どもと読書」家庭や地域でできること

A班テーマ：子どもと本をつなぐには

～子どもの周りの年長者ができることってなんだろう～

B班テーマ：施設で本と親しむには

～本との出会いが楽しくなるにはどんな工夫ができるだろう～

- (2) 図書館の概要について説明後、3グループに分かれて各テーマについて意見を出し合い、発表しました。

第2回目テーマ：子どもに読書の楽しさを伝えるためには

A班テーマ：図書館の楽しさを広めるためには

～子育てをフォローするときに図書館ができることってなんだろう～
就園(3歳まで)の子どもにできること

B班テーマ：図書館の楽しさを広めるためには

～子育てをフォローするときに図書館ができることってなんだろう～
就学期前後の子どもにできること

C班テーマ：タブレットによる調べ学習時代で本による調べ学習の意義は

～手間をかける調べ学習は子どもに何を与えるだろう～

《裏面に続く》

4 まとめ

- (1) 生涯にわたって本の楽しさに触れない人もいるなかで、子どもと読書をつなぐために必要なことは、子どもたちが本を読んだり聞いたりして楽しいと思える時間を過ごせるかどうか。そのためには、地域の人たちである年長者が子どもたちと関わりながら本を薦めること、また公共施設等に本が置いてある環境を作ることが必要である。地域の人たちを巻き込んだ読書環境作りが、子どもと読書をつなぐために必要である。

- (2) 子どもにどのような本を読み聞かせれば良いのか、どのように読み聞かせをしたらいいのかが分からない親のために、読書について相談ができる場があり、相談できる人がいることが重要。また子どもが小さいときから活字を読む習慣をつけることで、物事を組み立てたり判断する力を養うことができる。本のコミュニティとなっている図書館は重要な子育て支援の場となる必要がある。